

良子さんの ほっと一息ティータイム

手挽コーヒーミル

熊谷良子 vol.17

本と絵画と音楽とコーヒーが好きという共通の嗜好をもった私たち夫婦の家は、年々増え続ける本らによって埋め尽くされることになります。

中でも私が好きなのは、夫が学生のころから愛用してきた手挽きコーヒーミルです。

木箱とレバーの木製の取手が美しく、レトロな雰囲気と重量感はそのま存在感となって、どこに置かれていても優しさと気品があります。

どんなに忙しいときでも、どんなに陰湿な関係にあるときでも、どちらからともなく豆を挽き始めると、そこには何時でも変わらない穏やさが漂います。

だからといって、忙しさや喧嘩が片づくわけではありませんが、ちょっと休憩、休戦はできます。

年齢差のある3人の子育て期の日常は、時間との戦いで、まるで倍速再生の動画をみているような怒涛の日々が思い出されます。

仕事モードから家庭用お母さんに素早く変身して、早業で並べた夕食を美味しくほおぼる子どもに幸せな笑いが家族を包み、ほっとしたものです。

いま振り返ってみると、「よく頑張っているね。疲れているね。ゆっくりおやすみ」と声をかけてあげたくなる私の姿でもあったように思います。

寝る前のカフェインは睡眠を妨げると言われますが、私は家族が寝静まった夜中の手挽きの音と香りを好んで楽しんでいました。

なぜだか、子育ても終わった時間のたっぷりあるはずの今は、スイッチひとつで出来上がる電動コーヒーメーカーを使っています。

さて、子どもたちは『大どろぼう ホッツェンプロッツ』が大好きです。

それは、物語の発端である盗まれたおばあさんのコーヒーひきが、我が家の手挽きコーヒーミルと同じ形をしていたからです。

大人になった今でも、ホッツェンプロッツと手挽きコーヒーミルの話を夢中で語ります。

2023. 10. 1

